

スポーツコンテンツの投資効果に関する実証研究

Empirical study on investment in stadiums

主任研究員名：永田 靖

分担研究員名：安達 晃史，生田 祐介，松本 宗谷

本研究では、スタジアム建設の経済分析（直接効果と正負両面ある外部効果の定量的把握）を通じて、利潤追求を目的とする公共財的施設の最適配置および資源配分について新たな視点を提示することを目的とする。スタジアム投資が社会全体にもたらす効果検証を通じて、スポーツ行政に政策的示唆を与え、公共経済学の理論的発展にも資することが期待される。

本研究の学術的独自性は 2 点ある。1 点目は、公共財的施設のもたらす局地的な経済効果だけでなく、社会全体における最適資源配分を検討する点である。2 点目は、公共財的性質を備えた施設の外部性を①施設固有の外部効果と、②立地環境によって変化する外部効果に分解し、それぞれ特定化する点である。

分担者（安達・生田・松本）と議論するなかで、外部効果に関する定量的評価と最適なスタジアム配置の重要性を再認識した。また、国内外の研究レビューにより、①スタジアム建設による正の外部効果は波及範囲が限定的であること、②わが国では同じ都道府県内でのスタジアム移転が多く、正・負両面の外部効果が同一の行政区域にもたらされるケースが多いこと、③スタジアム建設によって生じる負の外部効果に関する研究が極めて少ないことなどが明らかになった。

本年度の成果としては、スタジアムを新たに建設した「サンフレッチェ広島」の本拠地である EDION PEACE WING HIROSHIMA（エディオンピースウイング広島）を訪問し、予てから建設推進部長であり初代所長とのヒアリングにより、スタジアムの建設前と後のスポーツ団体の経営状況と、市民の動線の変化、ならびに併設されるスタジアムパークの活用法について意見交換をおこなった。さらに経済産業省中国経済産業局流通・サービス課と以前から交流があるため、スタジアムの誕生による市街地経済への波及の展望を定点観測している。今後はより具体的かつ定量的な数値で事象をとらえられるよう検討している。

当該調査内容については、中国経済産業局主催のセミナー「スポーツコラボネットワーク中国」において報告した。